

スキマへの投稿募集中

スキマTimes

詳しい投稿方法は
1237 ページに！

日本臨床麻酔学会 第45回大会への軌跡

大会長奮闘記⑩「チーム力」

いよいよ、「STEP UP！～未来を拓け、すべての人とともに～」も目前です。日程は12月4日（木）・5日（金）・6日（土）の3日間。会場は、ポートメッセなごやです。多くの時間と情熱が積み重なって、ようやくここまで到達しました。

学術集会の開催には、膨大な準備とそのための経験が必要です。大会テーマや会場の選定からプログラムの設計、演題募集、査読、当日の運営まで、すべてが緻密な計画の上に成り立っています。

大規模な学術集会は、専門のイベント会社が運営を支えます。今回、私たちがお願いしたのは「日本コンベンションサービス」。日本集中治療医学会の学術集会も担当しているので、お馴染みの方も多いでしょう。ちなみに、日本麻酔科学会は「コングレ」です。イベント会社はまさに“縁の下の力持ち”。会場設営や参加登録、スポンサー調整など、細部にわたって大会を支えています。

準備は大会の1年以上前から始まりました。年間スケジュールと詳細な To Do リストを共有し、毎月のように会議を重ねて少しずつ形にしていきました。日程を決め、テーマを決めました。プログラム作成委員会を立ち上げ、演題募集や査読、演者・座長の選出を重ねていきました。対面・オンラインを組み合わせた会議は数えきれず、メールの嵐は吹き荒れ続けました。

予算面では、多くの企業にご協力をいただき、目標額を達成しました。しかし、機材や人件費の高騰により支出が増加し、赤字を避けつつ“おもてなしの質”を維持する工夫が求められました。学生ボランティアの協力や設営方法の見直しなど、知恵を絞る日々は最後まで続きます。

理想と現実の狭間で最適解を探る——それが学術集会運営の現実です。華やかな当日の裏には、数えきれない議論と選択、そして人々の努力があります。学術集会の開催とは、まさに“チームの総合力”が試される場なのです。

われわれのチーム力を確かめて来てください。

（上村 友二、祖父江 和哉）